

# 第30回市民動物園会議

## 会 議 録

日 時：平成28年10月17日（月）午後1時30分開会  
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

## 1. 開 会

○事務局（加藤円山動物園長） 定刻となりましたので、ただいまから第30回市民動物園会議を開催させていただきます。

皆様、本日は、お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

開催に先立ちまして、私、園長の加藤より、一言、ご挨拶をさせていただきます。

円山動物園は、今、大きく変わろうとしているところでございます。後ほど詳しくご説明をいたしますが、動物専門員という現業職ではなく、一般職の新たな職を設けることになり、これからその採用試験などをやり、来年から採用しようと考えております。

また、本日は、円山動物園第2次基本計画についてご審議いただくこととなります。

この基本計画は、まさに動物園のこれからを決める非常に重要なものでございます。本日は、円山動物園の現状や今後の見込みなどをご報告させていただきます。忌憚のないご意見をお願いいたします。

なお、本日の出欠ですが、高山委員、中山委員、八木委員から、所用のためご欠席というご連絡をいただいております。

それでは、議事に入らせていただきます。

以降の進行は、金子議長をお願いいたします。

## 2. 議 事

○金子議長 皆さん、こんにちは。

今日もお忙しい中をお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

昨年来、市民動物園会議においては、非常に重たい議題につきまして、皆さんにご議論いただいているところでございます。ただ、昨年より皆様にご議論いただいております三つの提言を昨年末に市長へ提出させていただきましたもののうち、人材確保・育成がまだ整理されておられません。今年の6月に基本的な方向について、おおむねご説明をいただいていたところでございますけれども、今回、方向性が出たということで、それについてのご報告をいただきます。

それから、今も園長からお話がありましたとおり、第2次基本計画についてです。昨年のウッチーの死亡事案は非常に残念で悲しいものでありましたけれども、それを受けまして、長期的な視野に立ち、円山動物園はどうしていくのか、夢を持って動物園をつくっていきたいということですので、それについて皆さんから忌憚のないご意見を伺えればと思っております。

今日は、短い時間ではありますがけれども、活発なご議論をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、座って進行させていただきます。

皆様のお手元に資料があるかと思っておりますけれども、まず、議題1の「マレーグマ『ウッチー』の死亡事案に係る改善計画（中期的課題）」に対する提言書の検討進捗状況について

て～「人材確保・育成のあり方」についてご報告いただきたいと思います。

○事務局（白水飼育展示課長） 飼育展示課長の白水です。よろしくお願いたします。  
それでは、私から資料の説明をさせていただきます。

資料１－１の「マレーグマ『ウッチー』の死亡事案に係る改善計画（中期的課題）」に対する提言書の検討進捗状況について」をごらんください。

提言に対する進捗が比較できますよう、前回に提出した資料と同じ様式を用いております。

市民動物園会議の皆様からは、昨年１２月にⅠからⅢまでの三つの提言をいただいております。

前回の会議では、残るⅡの人材確保・育成のあり方につきましては、受験資格について、現在の高校卒業以下から高校卒業以上に変更するなど、飼育員を希望する者に対して、現状よりも広く門戸を開くべきである、動物飼育員の職を現在の現業職員から一般職員に変更すべきである、中長期的な視点に立った人材育成プログラムを整備すべきである、最後に、飼育員の増員を検討すべきであるといった提言を踏まえ、庁内で検討中との報告をさせていただきました。

その後、この課題につきましては、いただいた提言を尊重し、新たに動物専門員という職を設置することとし、去る９月２８日から募集受付を開始したところです。

具体的には、次のページをごらんください。

資料１－２の「平成２８年度札幌市職員（動物専門員）採用試験案内」でございます。  
まず、採用予定数及び主な配属先であります。

１にありますとおり、採用者数は４名程度を予定しております。これは、現在の飼育員に加えての採用であることから、あわせてご提言にございました飼育員の増員を実現するものでございます。

主な配属先は、円山動物園となります。

次に、２の受験資格であります。

まず、生年月日は、昭和５７年４月２日以降に生まれた方となりまして、平成２９年４月１日現在で３５歳未満の方が対象となります。

学歴は、学校教育法における大学で、これには大学院及び短期大学を含みます。または、高等専門学校、専修学校（高等学校卒業を入学の要件とする２年以上の課程であること）において、動物に関連する課程、学部、学科を卒業、修了もしくは卒業・修了見込みの方、または、市長がこれらと同等と認める方としております。

また、学校教育法における高等学校を卒業している者もしくは卒業見込みの方でも、日本動物園水族館協会加盟の動物園または水族館において２年以上の飼育業務の職務経験を有していれば受験可能となります。

次に、裏面の３の試験日時、会場及び内容であります。

まず、第１次試験は、今年の１１月２０日日曜日に実施いたします。

試験内容は筆記と論文から構成され、筆記試験につきましては、120分の択一式による教養試験、また、90分の択一式による専門試験から構成いたします。論文試験は、60分で、動物に関連する課題となります。

第2次試験は、12月15日木曜日に面接試験により実施いたします。

次に、採用後の職務内容等についてです。

4にありますとおり、このたびの動物専門員は、現業職ではなく、一般技術職となります。こちらにも提言に従うものであります。

主な職務内容は、ごらんいただけるとおりのものとなります。

受験申し込みは、5にもありますが、本日、10月17日までとなっております。

新規採用に関するご説明は、以上のとおりとなります。

なお、現在の動物飼育員についてであります。こちらは動物専門員に転任する機会を設けることとし、年内に転任試験を実施する方向で検討を進めておまして、まさに本日開催される人事委員会でその是非が諮られる予定となっております。

資料1-1に戻っていただきます。

先ほど説明しました動物専門員の増員についてですが、平成29年度には4名程度を採用、増員することとしましたが、さらに、30年度に向けて、関係部局に対する増員の要求を引き続き行ってまいります。

また、高い知見の収集や新しい技術の習得、蓄積が行われるよう、園内のみならず、国内外の他園館での研修実施や学会、研究会への参加等により職員の育成も積極的に実施してまいりたいと思っております。

なお、資料1-2の採用試験案内につきましては、試験の内容にかかわることから、恐縮ながら、質疑応答は差し控えさせていただきますので、何とぞご了承ください。

提言書の検討進捗状況につきましては、以上のとおりでございます。

○金子議長 ありがとうございます。

私ども市民動物園会議から提言させていただいた内容にほぼ沿った形で市に対応をいただけたのではないかというふうに思います。

要項などは既に案内がされているところですので、それ以外のところでご質問やご意見等があればお願いしたいと思います。

○佐藤委員 答えていただけるものかはわかりませんが、応募の方はどのくらいいるのですか。

○事務局（白水飼育展示課長） 本日10月17日が締め切りでして、何人という情報はまだ来ておりません。ただ、各区役所に置いておいた応募用紙は全てなくなっているという話ですし、道内のみならず、全国から100件以上の応募用紙の取り寄せ希望があったということで、相当人数の応募があるのではないかと予想しているところでございます。

○金子議長 かなり来るのではないかと思います。

○佐藤委員 期待したいと思います。

○金子議長 他にいかがでしょうか。

○異委員 提言の中期的課題の中で中長期的な視点に立った人材育成プログラムを整備すべきであるとの提言内容があって、その進捗状況として、研修会などへの参加を実施していきますとの説明のみで終わっているのですね。

実際に人材育成プログラムは具体的につくられる予定なののでしょうか、それとも、年に何回くらいは研修会に参加するというものになるのでしょうか。

○事務局（白水飼育展示課長） 実のところ、プログラムの細かいところまではまだできておりませんが、研修体制として、こういうふうに進めていったほうがいいのではないかとということで組立をしている最中です。

その中で、1年目はこれをする、2年目はこれをするというようなものまでお示しできるレベルではないのですけれども、動物専門員としてここまでのレベルまで行ってほしいというものはつくってありますので、それに向けてどういう研修をしていったら、より効果的かを探っているところです。

また、札幌市の現業職と一般職の違いについてですが、一般職には大きな研修の機会が市役所であるのです。例えば、今も飼育員は解説をやっておりますけれども、プレゼンテーションの研修はしたことがありません。そういう研修が市の研修の中に組み込まれているので、そういうものも利用し、動物園独自の研修プログラムだけではなく、市職員としての研修プログラムにも載せて進めていきたいと考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

その他にございませんでしょうか。

○高井副議長 二つあります。

先ほどの異委員の質問にあった中長期的なというものの中での動物専門員についてですが、こちらは現業職ではありませんので、ものすごく頑張って専門性を高めた場合には中長期的にはそれなりの待遇も用意するという意味も含まれているのでしょうか。

○事務局（白水飼育展示課長） 一般職となりますので、係長になり、課長になり、園長になりという道が開かれていきます。

○高井副議長 それはかなり大きな違いになりますね。場合によっては園長にもなり得るぐらいの専門家を誇りと専門性を持って育成していただくというのはよいことだと思います。

二つ目ですが、この提言書には3点があって、前の会議ではⅠの組織強化のあり方とⅢの開園時間と休園日については一定の回答をいただいたということでした。また、議長が最初に申し上げたように、二つ目は保留していましたが、今のお話で十分な回答をいただけたように思います。

ただ、確認ですが、増員を検討すべきだというのは難しいのではないかと思います。厳し目の提言として申し上げたのですが、4名は純増ということでよろしいのですか。

○事務局（加藤円山動物園長） はい。

○高井副議長 それはよかったですね。

それでは、白水課長がおっしゃった「増員を今後も」というのは、それにプラスして増員を検討するかもしれないということですか。

○事務局（加藤円山動物園長） 我々としてはそれを望んでおります。

○高井副議長 それもいいことだと思います。

○金子議長 ありがとうございます。

今、高井副議長からありました増員について、私からも追加でご質問させていただきます。

ゾウが導入されることにより、それに対する専門の飼育員が当然必要かと思えます。そこで、この4名というのはゾウの導入を見込んだものなのか、あるいは、ゾウが入ってくるときには、ゾウ専門という意味ではなくても、動物専門員を何名か要求していくという方向性でしょうか。

○事務局（白水飼育展示課長） ゾウが来ることを見込んでの増員になりますので、4名だけではなく、さらに要求していきます。

ゾウが来るのは平成30年度ですが、それまでの間にゾウをしっかり飼える体制をとらなければなりません。例えば、今いる飼育員が抜かれれば、その穴を新人がいきなり埋めるのは厳しいので、そういう面からもあらかじめ来年度から4名をいただいて、しっかりと受け入れ体制づくりをつくります。また、今年度からも行っておりますが、海外研修も含めて、ゾウに関する研修を行っております。

○金子議長 組織的にはかなり強化されるのですね。

また、もう一点です。

今日は、Ⅱについて集中的に報告をいただきましたが、ⅠとⅢについて、順調にいつているのではないかと思いますけれども、閉園時間や開園時間を変更したことによるトラブルなどはございませんか。

○事務局（三井経営管理課長） 年度当初など、休園日であることがわからないでお越しになった方がおりました。そこで、園あるいは園の周りの円山公園など、広報さっぽろだけではなく、今日は休園日ですというご案内をさせていただき、ある程度周知されたのではないかと思います。ですから、確認のお電話や動物園に来てご意見を言われるようなことはほとんどありません。

○金子議長 順調に周知され、問題なく推移しているということですね。

○事務局（白水飼育展示課長） また、アフリカゾーンへの動物の移動のときも、獣医たちでの話し合いを含め、組織を強化していただきましたので、それが有効に機能したのかと捉えております。

○金子議長 ありがとうございます。

○事務局（加藤円山動物園長） いずれにしても、アフリカゾーンに動物をしっかりと移動できたのは、休園日があり、事前に練習して、本番を迎えることができましたし、獣医

師がチームとして活躍した結果なので、これらについては非常にいい効果を生んでいると思います。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、他はよろしいでしょうか。

○矢野委員 市民動物園会議には第24回から出ておりますけれども、これは市民の目が一番大事であると思います。この提言がなされる前は、飼育員は現業職ということで、学校から来られた用務員、あるいは、清掃作業員の方が来られておりました。

これからは、職種としてはレベルが上がっていき、獣医師になられるような方となります。前は格差があったのですが、それがだんだんと圧縮されてきていますので、大変よかったかと思います。これには秋元市長の英断もあったかと思います。

このように、だんだんよくなって、近くに住んでいる住民としてはうれしい限りです。

○金子議長 ありがとうございます。

○上田委員 4月から開園時間や飼育の体制が少しずつ変わったと思うのですが、それに対して一般の飼育員から声は上がっていますか。

○事務局（白水飼育展示課長） 休園日ができ、休園日には大きな車を使った作業を日中に行えるので、作業しやすくなった部分もあります。お客様の危険がない状況でできるようになりました。

ただ、実を言うと、飼育員は毎日飼育することに変わりはないので、休園日があることに気持ちがいっていないのかなとも感じております。

○事務局（加藤円山動物園長） 今までは始業し、全体のミーティングをしておりましたが、班のミーティングが終わらないうちに、お客様が先に着いてしまうこともありました。しかし、開園時間は30分繰り下がったので、飼育員同士がしっかりとミーティングしてから、現場に出ていけるようになったと見ております。

○事務局（白水飼育展示課長） そこは大きなところですが、休園日というよりは30分繰り下げされたことはよかったことだと思います。

○後山委員 それによって来園者数は変わりましたか。

○事務局（加藤円山動物園長） 休園日の影響というよりは、今年につきましてはゴールデンウィーク前半に雪が降ったり、6月の週末の天候が悪かったり、天候が非常に不順だったため、去年より厳しい数字になったのかと見ております。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、議題1を終わりにして、議題2に移ってよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○金子議長 議題2は、非常に重たく、重要なものですが、札幌市円山動物園第2次基本計画についてです。

検討状況につきまして、事務局からご説明をいただきたいと思っております。

○事務局（三井経営管理課長） 経営管理課長の三井です。

資料2をごらんください。

1枚目と2枚目が関連いたしますので、一括してご説明させていただきます。

まずは、来園者数の推移について、現状をご説明いたします。

現在の計画は、平成24年度からを対象としました改訂第1次基本計画となっております。参考までに平成19年度からの第1次基本計画の期間も含め、過去10年間の推移をグラフで掲載しております。

年間来園者数の増減に大きく影響するのは、大規模な展示施設の開設、希少動物の繁殖展示、また、屋外型の社会教育的な施設でありますことから、特に土・日・祝日の天候が挙げられます。

改訂計画の初年度である24年度は74万8,321人でしたが、次のアにありますとおり、24年12月にオープンしたわくわくホリデーアジアゾーンや25年に公開したホッキョクグマの双子により、翌25年度は前年度比28.2%増の95万9,431人となりました。しかし、翌26年度には、6月の記録的な長雨がたたりまして、前年比9.2%減の87万1,280人となりました。翌27年度には、ホッキョクグマの公開の他、サル山リニューアルオープンやアフリカゾーンの一部オープンが重なったことから、前年度比12.6%増の98万1,119人となりました。この数字は、昭和55年度以来、最多ではありましたが、目標の100万人には届きませんでした。

次に、イの過去5年間におけるゴールデンウィークの天候と来園者数についてです。

先ほど申し上げましたが、土・日・祝日の天候、とりわけゴールデンウィークの天候が年間来園者数に大きく影響する傾向がございます。左側のグラフでは、年度別にゴールデンウィーク期間中の来園者数の比較と雨が降らなかった日、つまり、晴れと曇りの割合ですが、それを折れ線グラフで示しております。特に25年度につきましては、全ての日が雨であったことから、来園者数の落ち込みが著しかったところです。

また、右側のグラフにありますとおり、1日平均の晴れと雨の差をあらわしており、その差は52%となっておりますことから、来園者数は天候に大きく左右されることがわかるかと思えます。

次に、右側の(2)の今後の見込みをごらんください。

第2次基本計画では、札幌市の上位計画であります札幌市まちづくり戦略ビジョンに合わせ、29年度から31年度までの3年間で検討しており、その間の来園者数見込みを概算で示しております。

具体的な推計はイに記載しております。

まず、改訂計画期間における来園者数実績からの推計として、平均来園者数は89万人と見込みます。

これに、新たなトピックにより、来園者の増加が期待できるものとして、29年度はアフリカゾーンの全面オープンの効果が本格化いたしますが、直近にオープンした大型施設でありますアフリカゾーンの入り込み効果実績の6万2,000人を加え、95万人と推



計いたしました。30年度には、29年度にオープンするホッキョクグマ・アザラシ館の効果が本格化することに伴いまして、先ほどのアジアゾーンの入り込み効果実績の約1.5倍、また、最大のトピックでありますホッキョクグマの赤ちゃんの入り込み実績を参考に、9万2,000人の増と試算し、105万人と推計いたしました。また、計画最終年次となる31年度は、アジアゾウの展示効果に伴いまして、同様に9万2,000人の増加を見込み、115万人と推計いたしました。

ただし、先ほども申し上げましたとおり、天候や動物の繁殖、展示の状況により、また、回目の会議でご検討していただく予定でございますが、観光客への情報周知の拡大や繁殖展示による集客など、各種のアクションプランによりまして来園者数は増減する可能性があると考えております。

なお、この数値は、あくまで推計値であり、目標値ではございません。第2次基本計画では、目標値として来園者数を掲げる予定はございませんので、よろしくお願いたします。

次に、2ページの「収支状況について」をごらんください。

まずは、現状の収支状況をご説明いたします。

収入、支出それぞれにつきましては、改訂計画の各年度の実績値を掲げております。また、改訂計画策定の前年度である23年度を当初値としてあわせて掲載しております。

改訂計画では、計画最終年次である28年度において、収支の均衡を図ることを目標としておりますが、28年度は現在執行中のため、この資料では直近の決算値である27年度と比較し、掲載しております。

まず、収入につきましては、目標値には届かなかったものの、当初値と比較すると、全ての項目において増加傾向となっております。特に、ネーミングライツの協賛金、年間パスポートの裏面広告などによる広告料と来園者数の増加に伴いまして、入園料収入の増加が顕著となっております。

次に、支出につきましては、平成22年度から27年度にかけて、園内施設を、順次、集中暖房から個別暖房に切り替えましたが、これに合わせ、熱源を重油から天然ガスへ転換したことにより燃料費が減少いたしました。

一方、電気料金は、23年度に比べて1.5倍となるなど、大幅な値上げとなっております。その他、飼料価格の高騰や大型施設の整備による管理面積の増大などによりまして維持管理経費が増加し、支出全体は当初値に比べて増加いたしました。

その結果、ウと資料右側のエにもございますとおり、収支均衡の目標達成は困難となる見込みでございます。

このため、第2次基本計画では、持続可能な経営に向けて、さらに効率的な動物園運営に努めていく必要があると考えております。

今後は、大型施設の整備に伴う光熱水費や飼料費等の維持管理経費などによる支出の増大が見込まれることから、来園者数、特に観光客などの有料入園者数の増加を図ることに

より収入を向上させ、計画的な財政運営に努めてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、今回提出を予定しておりました他園館調査につきましては、現在集計・分析の最中ですので、次回に提出させていただこうと考えております。

資料説明につきましては、以上でございます。

○金子議長 ありがとうございます。

来園者数の推移と収支状況についてご説明をいただきました。

最初に、来園者数についてです。来園者数については次期計画では目標値としないというお話をいただきましたが、これまでの推移等につきましてご質問等がありましたら、お願いしたいと思います。

○上田委員 こうやって来園者数を見ていると、結局、子どもが生まれて、かわいい、かわいいといってお客さんが入ってきているのはよくわかります。ところが、これからは、子どもが生まれて、こういう集客が期待できるような動物はいるのですか。動物たちが高齢になってきているので、かなり減るのではないかと考えるのですね。

そこで、補充といったら変ですけれども、若返り策は計画の中に入っているのでしょうか。

○事務局（白水飼育展示課長） 私からお答えいたします。

動物園が飼っている動物は希少種なので、高齢だからといって、さようならというものではありません。確かに、ホッキョクグマは大変高齢になっておりまして、この先が心配なところではありますが、今、大きな施設をつくっているところでもありますので、今まで頑張ってくれていたララとデナリに関しては、最期まで円山動物園で過ごしてもらいつつ、若い個体の導入もあわせて考えたいと思っております。

ただ、これはJAZAのコレクションプランもあるのでありますが、それも踏まえ、新しい個体の導入は考えていきたいと思っております。

他の動物に関しましても、全ての動物を新しい個体で、というのは難しいかと思いますが、動物園の中で計画を立て、JAZAのコレクションプランを踏まえながら、円山動物園で繁殖していくものはこれとなったとき、他園館との動物の入れ替えも行っていくことを含めて、やっていきたいと考えております。

○事務局（加藤円山動物園長） 3枚目の資料の説明にも入りますけれども、円山動物園で長く生きている動物たちはしっかりとケアしていきます。高齢動物がなぜ増えているかという、これまで動物園が頑張ってきているからで、それはより一層進めてまいります。

一方、課長が言ったように、日本国内の動物園の中の円山動物園の役割として、繁殖し、増やしていくこともありますので、その両方をきちんとやっていきたいと考えております。

○金子議長 他にございませんでしょうか。

○高井副議長 三つあります。

一つ目は、第1次基本計画で目標値になっていた来園者数は、第2次基本計画では目標値とするのをやめて、見込みとしたことには賛成です。動物園の姿勢としても、また、休

館日や開園時間のことを考えると、実質的には10%近く減るわけですから、そこで人数を目標にする必要は、もはやないかと考えております。そのかわり、満足度や動物の長寿命、繁殖率など、別の指標で考えるという姿勢には賛成です。

二つ目は、今、上田委員からお話にあった赤ちゃんが生まれるとお客さんが増えるということです。子どもが生まれることは、来園者数が増えるという意味で重要というより、白水課長から言っていただいたとおり、種の保存や研究調査などの本来の役割としてすばらしいことなのです。かつ、それによって来園者数が増えるということです。ただ、動物のことですので、必ずしも指標にはならないし、目標にすることはそぐわないと思います。

最後に、(2)のイで気になったところは、あたかも施設を新しくつくと、その年に人が増えるというような計画ですが、これには違和感があります。箱物ではないので、先ほど課長が言ったことだと、観光客を動員したり団体受け入れをやったり、別のところで人数増を図るのが本来かと思います。また、施設のことを言うのであれば、この施設をやったことで、どういうふうに動物園によいインパクトがあったか、どういう反省点があるかをちゃんとフィードバックするため、PDCAサイクルを回し、次の企画にも役立たせ、改善するというほうに結びつけたほうが良いと思いました。

○金子議長 ありがとうございます。

高井副議長のお話について何かございますか。

○事務局（三井経営管理課長） ここでその他と書いておりますのは、次回の議論の中心となると思いますけれども、繁殖や展示による集客、観光客の集客など、いろいろなソフト面でのアクションプランがあります。もう少し丁寧に言うと、ハードができて、それをどういうふうに活用するかというようなことなのかと思います。そのことによって、結果的にお客さんを増やし、園を維持していくことがプランの大事な要素かと思いますので、それについて次回の会議の中でご説明したいと思います。

○金子議長 私からも一つ申し上げます。

結局、来園者数の推移がこういうことだというのは理解できますし、動物園の中に施設ができた、増える、子どもが生まれた、増えるということは当然あるかと思いますが、外部的な要因として、人口構造は少子高齢化でかなり変わってきており、当然、札幌市も例外ではありません。一方で、外国人観光客がものすごい勢いで増えてきております。この方々たちを積極的に誘致する方向があるのかと思います。これは後ろのほうで出てくるかもしれませんが、来園者の質がかなり変化するのではないかと思います。子どもが減って、高齢者と外国人がかなりの割合を占めるような状況になってくると思いますが、これへの対応をどうするかは、第2次基本計画ではキーポイントになるのではないかと思います。

ですから、単純に115万人になります、ということではなく、この中身がかなり変わるのだということを前提として持っておいていただいたほうが良いのではないかと思います。

勝手なことを言いましたけれども、来園者についてはよろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 次に、収支についてご質問やご意見をお願いしたいと思います。

○高井副議長 統計を見ると、入園料と広告料が増えているのはすばらしいと思います。ネーミングライツも貢献したようで、場合によっては拡大を考えてもいいのではないかと思います。

また、入園料についてですが、これが増えるのは不思議で、私もパスポートをつくって持っていますが、1年で1,000円というのは安いのです。ですから、随分頑張っているのだと思います。ただ、他園館ではこうした安い金額でどうやって収支均衡を図っているのかを知りたいし、寄附金やネーミングライツなど、そういう工夫が他にあれば知りたいと思います。

次に、支出についてですが、電気、プロパンの経費が上がっていて、かわりに重油、天然ガスの経費が下がっています。電気料金が上がっているという説明はわかるのですが、重油、天然ガスを熱転換で減らしたのはいすばらしいことだと思います。重油、天然ガスの経費が下がった分と電気、プロパンが上がった分を差し引いても下がっているのですね。このようにエネルギーが下がったのはよいことですし、環境局の事業としてもかなり頑張っているのではないかと思います。

たしか、アジアゾーンで氷室のような施設を導入して雪エネルギーを使ったり、糞を処理する施設をつくったり、知られていないエネルギー上の工夫があると思うのです。それはよく見れば書いてあるのだけれども、あまりアピールされていないところがこういうふうに数値にちゃんと出てきていますので、第2次基本計画では強調してもいいのかと思います。

最後に、収支の実績についてです。赤字で、大体横ばいになっていて、これは仕方ないかもしれませんが、他園館ではどうなっているのかです。それに対して、円山動物園ではどうできるのかです。先ほども言ったように、1年で1,000円しか取らないで採算を合わせることができるのか、ディズニーランドぐらい料金を取れば収支が均衡するのかもしれませんが、改善の余地があるのかについて、第2次基本計画の検討の前に知りたいところです。

○金子議長 今の高井副議長のご意見についてはいかがでしょうか。

○事務局(三井経営管理課長) 次回には他園館の調査の結果をお出しいたしますので、今のご意見も含め、ご説明できるようにしたいと思います。

まだ調査の途中であります。民間の動物園や水族館は別にして、公営の園館は、先ほども言いましたとおり、社会教育的な役割があります。そこで、子どもは入園料無料、札幌市の場合ですと65歳以上の方は無料ということがありますので、そういうことも踏まえて収支を見ていくのがいいのかと考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

僕も年間パスポートを買っていますけれども、安いというのはありますね。2回来るのだったら買ってしまおうというような感じです。ただ、値上げすればいいというわけでもないかと思えます。

例えば、こういうものが現実的かどうかはわかりませんが、今、サポートクラブをつくられていますけれども、寄附金がそんなに伸びていないのであれば、そういうものも含めた年間サポーター会員ということで、年間パスポートとサポートも合わせたプレミアムのなものです。

○高井副議長 それはありませんでしたか。マルヤマンのデザインで。

○金子議長 サポートクラブは別に入るのです。

○高井副議長 20口入るとプレミアムカードがもらえるのですよね。

○金子議長 それだけなのです。どのカードが来るかはわかりません。これは10口でしたか。

○事務局（加藤円山動物園長） 20口そろえたら金色の年間パスポートがもらえます。

収支についてですが、動物園は、公営のところもあれば民営のところもあります。当然ながら、民営の動物園では収支が整わないと運営していけませんので、いただいている入園料は比べものにならないぐらいの額になっております。

○事務局（小菅環境局参与） 参考までに申し上げます。

年間パスポートが安い原因を作ったのは私です。旭山動物園が30周年を迎えるということで、そのことに対する市民への感謝で導入してほしいといったとき、私の頭の中では3回分と想定していたのです。要するに、420円で3回来れば元が取れるように、1200円とすればいいと思ったのですが、なぜかは知りませんが、市長から、「高過ぎる、500円でやれ」というむちゃくちゃな数字を示されました。ただし、10月からは消費税転嫁のために520円としたのですが、信じられないことに収入が上がったのです。それで入園料を580円にしたときも、1,000円もらえればいいという流れになってしまったのです。ただし、当時は、いわゆる年間パスポートではなく、動物園パスポートという名称にして、年度内有効としていました（現在は年間パスポート）。

旭山動物園でそれをつくってから上野動物園でも（年間）パスポート制度をつくったのですけれども、そのときも3回でペイするぐらいの金額だったはずですよ。

札幌市と旭川市は近いから、旭川市の料金設定に引っ張られているのではないかと、悪しき例ではないかと思っていたのです。そうした経緯からなかなか入園料を上げられないのかもしれませんが、それに引っ張られる必要もないのではないかと考えております。

だって、2回くればプラスになるという料金設定ですが、こんな設定にする人はいません。最初は3回分の設定だったのですが、いろいろな経過から、たまたまうまくいったので、それ以上、上げられないというのが現実です。ただ、札幌市はそれに縛られる必要は全くないと考えております。

○金子議長 利用する側にとってみれば、安ければ安いほどいいですよ。

○高井副議長 ただ、他園館の状況を知りたいですね。

○金子議長 その他にいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、動物飼育・施設整備についてのご説明をお願いいたします。

○事務局(白水飼育展示課長) 引き続きまして、資料の3枚目の「動物飼育・施設整備について」をごらんください。

「これまでの動物飼育」ですが、来園者が生息地の環境を感じられるとともに、命のつながりについて考えるきっかけとすることを目指して、アジアゾーンやアフリカゾーンを形成するとともに、動物福祉の向上のため、環境エンリッチメントの充実にも取り組んでまいりました。

しかしながら、これまでとは異なる観点からの展示方法を推進していく一方で、動物の管理体制に関する検証や見直しが十分に進まず、結果として、動物の死亡事案を引き起こす事態となってしまいました。

このため、第2次基本計画の策定に当たっては、この課題を踏まえまして、飼育の大前提である安全確保に万全を期した上で動物福祉の向上に取り組んでまいります。

続きまして、(2)の「動物の死亡事案を受けて」について説明いたします。

先ほども説明しましたとおり、さまざまな施設の建設や環境エンリッチメントを充実させて展示方法を刷新していった一方で、飼育マニュアルの更新や組織としての情報共有の機会確保、職員の資質向上といった管理体制に関する検証や見直しが十分に進みませんでした。その結果、動物を飼育する上での基本となる安全への配慮がおろそかとなる局面が生じ、マレーグマの死亡事案を引き起こす事態となってしまいました。

この事案に対しては、平成27年8月21日に動物管理センターより改善勧告を受け、同年8月28日に策定した改善計画に基づき、動物舎の施設点検や飼育マニュアルの見直し、職員研修等を実施しております。

また、解決までに一定の時間が必要な課題につきましては、市民動物園会議に附託し、平成27年12月に提言書をいただいたところです。なお、この提言書に基づく検討進捗状況については、先ほど説明したとおりでございます。

今後も改善勧告及び提言書を重く受けとめ、動物の安全確保のため、人材の育成や職員教育等を継続して行い、組織の強化に取り組んでまいります。

続きまして、資料右側の(4)のこれからの動物飼育でございます。

具体的には、図をごらんください。

まず、動物福祉の向上の側面から、環境エンリッチメントの充実をさらに進めるとともに、高齢動物のケアという観点にも立った飼育・展示方法について検討してまいります。高齢動物のケアにつきましては、先ほど園長からもありましたとおり、円山動物園だけではなく、全国的な問題でもありますので、しっかり行っていきたいと考えております。

そして、動物専門員と獣医師が互いに協力し合い、かつ、それぞれの専門的な立場から

意見を述べ合って、技術の向上や知見の集積を図り、動物の安全確保に努めてまいります。

この動物飼育の基盤とも言える部分をしっかりと固めた上で、図の右側にありますとおり、動物園の社会的使命として挙げられます調査・研究、種の保存、教育・学習、レクリエーションという観点から各種取組を実施してまいります。そして、本基本計画期間中においては、これら4点の取組のうち、特に教育・学習に力を入れて進めていきたいと考えております。

具体的には、動物専門員によるガイドや教育プログラムの充実を図り、来園者の皆様が環境保全のための行動を起こすきっかけとしてもらうよう取り組んでまいります。

他3点につきまして、まず、調査・研究については、外部研究者と共同して飼育動物に関する専門的知識の集積に努めるとともに、地元の環境保全団体との連携の輪をつくり、市民活動の交流の場となるような動物園を目指していきます。

種の保全については、先ほどの質問へのお答えでもお話しいたしましたとおり、日本動物園水族館協会——JAZAのコレクションプランを踏まえた飼育、展示を推進してまいります。こちらに当たっては、国内の園館との連携はもとより、国際的なネットワークへの参画も視野に入れつつ、北海道の固有種の保全についても積極的に取り組んでまいります。

レクリエーションにつきましては、これら三つと密接に結びついていることを念頭に置き、楽しくわかりやすい展示を心がけるとともに、子どもたちの興味を呼び起こすようなプログラム作成や落ちついた環境で動物を見ながらくつろげる施設づくりなど、動物園全体の魅力を高める取り組みを続けてまいります。

これらの方向性に基づく取り組みを進めることによって、動物園は地球規模の生物多様性保全に貢献する場であるという全ての動物園が帯びている使命を果たしてまいりたいと考えております。

なお、具体的な取組につきましては、今後、庁内で検討を進め、次回の会議で提示させていただく予定です。

○事務局（三井経営管理課長）　続きまして、私から施設整備に関してご説明させていただきます。

まず、整備する施設の新築、改築を計画するに当たりましては、動物本来の生息環境に可能な限り近づけるよう努めるとともに、環境エンリッチメントを検討の上、これを実現するための工法を採用し、動物が本来持っている能力を十分引き出すことに取り組んでまいりました。

その結果、下の図にありますとおり、改訂計画期間中におきまして、随時、施設整備を行ってきたところでございます。しかし一方で、設計時には想定していなかった動物の行動により、扉のロック機構や檻のすき間寸法、取り付け強度などの各種安全対策が有効に機能しなかったことから、エゾヒグマやシンリンオオカミ、コツメカワウソなどの死亡事案が発生いたしました。

そこで、右側のこれからの施設整備にありますとおり、こうしたことも踏まえた動物舎の再整備を進めていく必要があると考えております。あわせて、動物園全体の魅力をより一層向上させるため、以下の三つの柱に基づく取組を進めてまいりたいと思います。

一つ目は、今の説明とも関係しますが、動物舎の再整備としまして、動物種ごとの習性、行動、能力を踏まえることによる施設の安全確保、動物の福祉の充実を図ってまいります。また、アジアゾーン、アフリカゾーンで採用いたしました地域ごとに生息する動物の集約を図ることにより、動物地理学的展示をさらに推進してまいりたいと考えております。

二つ目の来園者の利便向上として、第1駐車場の拡充や団体バスの乗降場を整備することにより交通機能の強化を図ってまいります。また、園内飲食施設等の充実により、おもてなし機能を向上させることも重要であると考えております。さらに、老朽化設備の更新や整備等を計画的に進めてまいりたいと考えております。

三つ目の管理運営機能の強化といたしまして、ホール施設や展示室などの機能性向上により環境教育機能を拡充してまいります。加えて、事務所やスタッフルームの拡充と集約を行い、管理部門と飼育部門のさらなる連携強化を図ることが重要であると考えております。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、こちらについてのご質問やご意見等をお願いしたいと思います。

まず、私からです。

動物園の社会的使命の四つの項目は、他の動物園でも言われているというか、一般的なものののですか。

○事務局（白水飼育展示課長） はい。

○金子議長 どこで計画を立てるときもこの四つが柱になるのですか。

○事務局（白水飼育展示課長） はい。

○事務局（小菅環境局参与） 近代動物園になったときに、動物園ではこの四つの柱を立てて、社会的使命を果たしていきましょうということが世界中に広がっていきました。ですから、アメリカでもどこでも、この四つの柱で計画を立てるのが当たり前になっております。

○金子議長 先ほど高井副議長から他園館の状況がどうなっているのかというご質問がありましたけれども、最近、他の動物園がつけられた基本計画の中に何か新しい柱が立てられるということはないのですか。

○事務局（小菅環境局参与） 例えば、円山動物園の場合、北海道固有種の保存とありますが、これは上野動物園ではできないわけです。そういう意味では、これを載せることができるのが円山動物園の特徴になります。そういうふうにして、自分たちができるものを当てはめて計画をつくっていくことが多いです。

よこはま動物園では、インドネシアのほうへ行くということも入っています。また、上野動物園は小笠原諸島を持っておりますから、アカガシラカラスバトなんかについてやり



ますなど、そういうふうにして自分たちの置かれている状況でやらなければならないことを四つの柱に当てはめてつくっていくということが多くですね。

○金子議長 先ほどお話ししていましたが、外国人が入ってくるなど、多分、新しい状況がいろいろと出てくると思うのです。また、課長からお話がありましたが、国際的なネットワークをつくっていくということでしたが、そういうことを考えると、特にアジアの中で円山動物園の果たす役割は、お客さんにとっても動物たちにとっても、非常に大きなものが出てくるのかと思います。しかし、国際的というキーワードが一つも入ってきいていなかったの、そういうものが入ってきたほうがいいと思うのです。

動物園が目指す方向、この四つの柱については理解できるのですが、円山動物園としては、北海道固有の動物をどうするのか、また、国際的なネットワークをつくるなど、キャッチーな目標みたいなものが必要なのかという気がするのです。

○事務局（小菅環境局参与） 動物園は地球規模で種の多様性を展示しておりますので、国際的な施設だと思うのです。それをどう表すかは、この四つの柱の前にベースとしてあるのですが、私としては、円山動物園は、もっと積極的に国際的な活動をやっていることを表に出していくべきだと思います。

特に、今回、ゾウを入れますが、これは非常に大きなきっかけだと思います。特に、アジアとの関係をどう作っていくかです。ただ展示動物を交換するだけではなく、それに基づいて、両国の関係を深くしていき、東南アジアの国々と連携した活動をどうやって組み立てていくかということがありますので、立ち位置はすごく重要だと思います。

○金子議長 他にございませんでしょうか。

○佐藤委員 円山動物園が四つの柱の上にどういう動物園像を描くのか、どういう動物園になっていきたいのかということを持たなければいけないのではないかとお話が前回にあったと思うのです。それで、どうなのだろうと思っていました。

今は一つの動物園が勝手に自分のところだけで何かをできる時代ではないのは確かで、国内だけではなく、国際的なネットワークの中で自分たちの役割は何なのかを考えなければならないということがあるかと思っています。それと同時に、札幌市の市民の動物園として国際的な役割と市民のための動物園を合わせ、そこにどういう動物園像を描くのかというイメージというか、ビジョンみたいなものがこの前にあったらいいかと思いました。

○事務局（加藤円山動物園長） 円山動物園には、平成19年3月に策定した円山動物園基本構想がありまして、それはまだ脈々と生きているわけです。そこで言っている基本理念は「人と動物と環境の絆をつくる動物園」ということです。

今回の第2次基本計画もその理念に向かっていくためにこの四つの柱でいろいろなものを展開してきましょうということです。

○佐藤委員 それはもらいましたでしょうか。

○事務局（加藤円山動物園長） 最初にご説明したかと思っています。

○佐藤委員 次回にその抜粋版をできればいただけるとありがたいので、お願いします。

○金子議長 基本構想は何年までと年次は区切られているのですか。

○事務局（加藤円山動物園長） ありません。

○金子議長 構想を見直すわけではなく、それに基づいた基本計画ですね。

○事務局（加藤円山動物園長） 基本構想があって、第1次基本計画がありまして、それは10年の計画でした。今回は、基本理念のもとにある第2次基本計画についてご審議いただくのです。

○金子議長 第1次基本計画は5年で改訂することになっていましたが、今回もそういう形ですか。

○事務局（加藤円山動物園長） 集中取組期間が5年なのです。市の上位計画である札幌市まちづくり戦略ビジョン、そのアクションプランとの整合性をとっていかなければならないので、細かいところまで10年分を決められないのです。ですから、上位計画と歩調を合わせる意味で年次を区切ってやっていかなければならない部分はあります。

○金子議長 今回の年次計画は10年ですけれども、集中期間があるということですね。

○事務局（加藤円山動物園長） それが3年となります。

○金子議長 わかりました。

他にいかがですか。

○高井副議長 まず、今、佐藤委員がおっしゃったように、第2次基本計画を話す前に基本構想や基本計画をちゃんと共有すべきだと思います。ウェブ上に載っているから見てくれということなのかもしれませんが、要約版でもいいので、会議にちゃんと周知して、PDCAサイクルにより、チェックした上で第2次基本計画の審議をするのが基本だろうと思うのです。

次に、（1）と（2）の動物飼育についてです。マレーグマの死亡事案の話に焦点をかなり当てた動物飼育の総括になっていて、これは非常に謙虚で、すぐれた姿勢だと思うのですが、それでも第1次基本計画の中の動物飼育はこれのみに尽くされるものではないのです。かつ、展示というのは、先ほど言った動物園の使命の四つのうちの一つなので、調査・研究、種の保存、教育・学習などは、これまでの計画期間でどれだけの成果があり、どのくらいが実現できたのかをもうちょっと丁寧に見直す必要があると思うのです。その中で、私は専門家ではないので詳しくはわかりませんが、爬虫類の調査研究での情報発信では目に見えるような成果が出ていると思いますし、シロクマの繁殖など、やることはしっかりとやっていると思うのです。それを総括として評価すべきところを評価してから、先に行くのが筋ではないかと思います。

次に、施設整備についてです。コツメカワウソが排水口に流された事故が起きたということは反省事項ですが、施設を建てたことによって動物園の魅力が増したのか、あるいは、来園者の満足度が上がったのか、動物の健康状態がよくなったのか、そういったチェックをした上で締めくくり、第2次基本計画ではゾウ舎をつくる、何々舎をつくるというふうにすることが大事だと思うのです。つまり、建てただけではなく、建ててどうだったのか

というチェックをすべきではないかということです。

次に、（４）のこれからの動物飼育について、動物園の四使命にレクリエーションが含まれるのは首をひねったのですけれども、これが国際理解ならば、これはこれとしたいと思います。ただ、先ほど小菅参与から動物園によって解釈を加えたり独自性を出したりすることがあるのだとおっしゃっていたかと思うのですけれども、円山動物園では環境が重要だと思うのです。都心型であるにもかかわらず、円山公園が横にあり、神社の森が横にあり、後背地にはスキー場まであるわけです。こうした円山動物園の環境の持つ優位性と役割は、ひょっとしたら、世界、全国、どこでも同じものにプラスアルファする要素なのかと思いました。

次に、（５）のこれからのところですが、三井課長から動物地理学的展示という話がありましたけれども、アジアゾーンやアフリカゾーンなど、円山動物園がここ最近頑張ってきた新しい提案だと思うのです。しかし、もうちょっとキャッチーな感じにしたいのではないかと思います。佐藤委員からもありましたが、どういう動物園になりたいのだということをキーワードとして出せるような第２次基本計画になるといいのかなと思います。それがどういう言葉かはわかりませんので、小菅参与のご意見も聞きたいのですが、旭山動物園といえば行動展示と言われるように、円山動物園だと何だというようなキーワードです。それを動物地理学的展示という言い方にするのか、生態系展示という言い方にするのか、むしろ、これは動物園の専門家の方が検討すべきことだと思うのですけれども、広報にもなるようなキーワードを意識した書類や計画の作り方をしていただいたほうが望ましいと思います。

○金子議長 ありがとうございます。

高井副議長のご意見についてはいかがですか。

○事務局（小菅環境局参与） 我々が（旭山動物園で）行動展示と打ち上げたのは、何もないからです。何もないから行動展示という展示を考案したのです。はっきり言うと、同じようなものをつくっても、円山動物園と比較されたら、誰も注目しないわけです。だから、僕たちは行動に特化した専門動物園を目指したのです。

円山動物園は、北海道一、北海道唯一の総合動物園だと思いますので、別に新たな視点で、という必要はないと思っております。

もう一つは、世界的に見たときの円山動物園の特徴は、やはり円山公園です。ああいう自然の森がすぐ近くにあって、ヒグマが出てくるような場所にあって、しかも、大都会、２００万都市の中心部から地下鉄であつという間に来られるところにあるのですが、これは世界的にはないのではないかと思います。もっと言えば、クマゲラが園内で営巣するような動物園は間違いなくどこにもありません。これをどうやって円山動物園の特徴としてきちんと打ち出していけるかではないかと思います。

何度も議論したけれども、ニホンザリガニは、ここで繁殖させたものが動物園のビオトープの中でしっかりと息づいて、しかも円山川へ戻っていくのです。こうしたことを具体

的にできる動物園は世界的に見ても少ないと思います。それはザリガニが象徴していますが、いろいろな生き物で達成することが可能なのです。大都市にある動物園が大自然の入り口になっているのです。それは精神的な話ではなく、具体的な入り口になっているのは本当に特徴的で、誇るべきことだと思いますので、そこはアピールして、きちんと目指してやっていくべきだと考えます。

○金子議長 ありがとうございます。

○高井副議長 観光ガイドに書けるように一言で言えないものですか。

○金子議長 高井副議長が言ったように、円山生態系をそのままフィールドミュージアム的に使って、動物園がそこに入っているのだというような位置づけですね。

○事務局（小菅環境局参与） 大自然への入り口だということから、大自然の窓口にある動物園という表現でもいいかと思います。でも、これは結構使っているのです。

○金子議長 ただ、場所自体が窓口になっているのですよね。上野動物園にいても熊が出るわけではないし、クマゲラが生息しているわけではないのです。このように、飼育動物ではない動物がやってくるのはすごいことではないかと思うのです。

○事務局（小菅環境局参与） 本当にいい場所にあって、しかも総合動物園なのです。ただ、キャッチーなといとなかなか難しいですね。

○金子議長 場所的には円山動物園を他の動物園と差別化するには、今、小菅参与が言われたことがキーワードになるのです。そういう動物園の周りの生態系は、三井課長が前に言われておりましたが、商店街も含めて地域として考えていければ、かなりおもしろい計画になっていくのかと思います。

○高井副議長 先ほどもアフリカゾーンに行ってきたのですが、入ったらにおいがして、湿気と熱があって、違う動物が同じにおいと気温と湿度の中でのいるのはおもしろいところだと思ったのですが、寒帯アジアや高山アジア、アフリカみtainな動物地理学的展示はそんなに珍しくないのですか。

○事務局（小菅環境局参与） 世界的には随分前から小さな都市型の分類学的展示で来たのだけれども、それから広く大きな第2動物園をつくっていく段階になって、動物地理学的展示へ取り組むという例は割とありまして、国内でも結構あるのです。名古屋が敷地を広げるときには、アメリカゾーンという名前をつけてやっていました。

○高井副議長 動物地理学的展示だけでは売りにならないですか。

○事務局（白水施設展示課長） そうですね。ズーラシアもそうですね。

○事務局（小菅環境局参与） 完全につくるときからそうです。多摩動物園でも郊外型でつくるとき、土地が広く使えるので、地理学的展示をスタートさせているのです。

○高井副議長 今日の会議でキャッチコピーを出せるわけではないのですが、博物館学としては、建物の中ではなく、まちの中のいろいろなスポットを含めたエコミュージアムという概念がありますけれども、動物園版エコミュージアムみたいなアピールができないかなと思いました。

○金子議長 ありがとうございます。

その他にございませんか。

○異委員 動物の死亡事案のことでいろいろと言われているかと思えますけれども、個人的に気になったのは、高齢動物のケアについてです。どんなふうにケアをされているのか、我々には情報が全然入らないのです。ですから、イベントの中でもいいですし、紹介していただければと思います。客層も高齢化していると思えますので、すごく気になるのではないかなと思います。高齢の動物がこんなふうに大事に飼育されているのだということ、事件があったからこそ伝えていき、こんなふうにケアしているのだという動物園の温かみを伝えられたら、騒いでいる人の声が静まっていかないかないかなと思いました。

○金子議長 いかがでしょうか。

○事務局（白水飼育展示課長） 機会を捉え、やってみたいと思います。

○金子議長 一覧表みたいなデータはあるのですか。

○事務局（白水飼育展示課長） この間の敬老の日にもパンフレットを作りまして、お配りいたしました。円山動物園では、それこそエゾヒグマは世界最高齢に近いですし、目立ちませんが、ダイアナモンキーも世界第3位です。このように、結構高齢な動物はいますので、機会を見ながらお知らせしていければと思っております。

また、予防医学からの観点からという書き方をさせていただいておりますが、ハズバンダリートレーニングがあります。私が獣医のころは麻酔を使わないと採血一つできませんでしたが、今は動物たちがしっぽを出してくれたり手を出してくれたりするので、麻酔下ではなく採血できる動物が徐々に増えていっております。

これは一日にしてできることではなく、日々のトレーニングが必要ですので、大変時間はかかりますが、そういうことをすることによって、皆さんも健康診断をするかと思えますけれども、安全にして、かつ、早目に手当てができることがケアにつながっているかと思っております。

○佐藤委員 生き物なのだから、当然、死ぬのです。だから、たまたまというか、ウッチーの事件があってナーバスになり過ぎているところが若干あるのかなと思います。これは人のミスだ、事故だというときにはきちんと反省しなければならないのだけれども、基本的にはすごく大事に、一生懸命ケアしていらっしゃるわけですね。その中で、避けようのない病気や老衰は、生きて死ぬものだということで、死を受け入れていくことも動物園の一つの接し方ではないかという気がするのです。

死んではいけないという話ではなく、いつか死ぬというのは生き物の定めなのです。ただ、生きている間はできるだけのことをしてあげたいけれども、人の力でいかほどにもしようがないところは受け入れるしかないということは見っておかなければならないところなのかと思います。

いつまでも生きていてくださいとは言えないので、何でもかんでも死なせてはいけないということではなく、冷静に死を受け入れることも考えなければならぬと思いました。

○金子議長 全く同感です。

実際に動物専門員という制度ができ、技術も大分上がってくるでしょうが、そういう情報をきちんと公開するという事です。動物園ではホームページでちゃんと公開されていると思うのですが、やはり、なぜ死んだのかについて、非常に心配に思う方々も多いので、より丁寧な情報公開や説明をしていただくことが大切なのかと思います。

もちろん、死なないと思っている方はそんなにいないと思いますが、非常にかわいがる方々は死んでしまうと何で死んだのだとかなり厳しく動物園にご意見される方もいらっしゃるのかという気がします。

○高井副議長 人間についてもどれだけ健康なのかみたいなことを図る指標として長寿率だとか、身長がどこまで伸びたかということで世界の貧困や豊かさ、健康度を図るということがあるのですね。白水課長がおっしゃったように、長寿である個体がいる場合は、先ほど佐藤委員が言ったとおり、死んでしまったことが悲しいということはあるかもしれませんが、ここまで健康に飼育したのだということは誇っていいもので、動物園の使命を果たしたということになると思うのです。

ですから、死亡が悲しいということはあるけれども、同時に、最高齢まで最善の健康的な動物の暮らしを保障したのだということは発信してもいいのかなと思います。

アムールトラもそうだと思います。国内最高齢だったかと思います。

○金子議長 他にございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、議題1と議題2という大きな議題についてはこれで終了させていただきます。

最後に、議題3の新着動物等についてご説明をお願いいたします。

○事務局(白水飼育展示課長) 資料3をごらんください。

主な新着動物と出産の状況です。

ここには書いていないのですが、レッサーパンダのギンの子どもは、順調に生育しておりまして、今、名前を公募しております。

その後の新着動物ですが、6月25日、26日、スダスローロリスが2頭を出産しております。いずれも元気に育っておりまして、スダスローロリスの出産がうまくいっているのは国内では円山動物園だけで、どんどん増えてきております。主な転出動物の一番下にもありますけれども、9月22日に上野動物園に雌が1頭出ております。この後、東山動物園と阿佐動物園にも出ていく予定です。

8月29日、ベニイロフラミンゴが1羽ふ化しており、順調に生育しており、大分大きくなっております。

9月21日、ミツヅノコノハガエルです。前に円山動物園で繁殖に成功していた個体ですが、このところあまりうまくいっておらず、上野動物園から戻ってきたものです。

9月21日、アルマジロトカゲが1頭繁殖しております。

9月26日、ニホンマムシ1頭が入園しております。これは、一般市民の方が捕まえたマムシです。うちのマムシがいなくなっておりますので、貴重な個体となります。

10月4日、シロテテナガザルが円山動物園で初の出産をいたしました。雄か雌かはわかっておりません。ブログでは発信しておりますが、昨日に初めて外に出ました。シロテテナガザルは出産から10日以上たっているのですが、生後2週間から3週間で命を落とす個体が多く、依然として安定しているとは言いがたいところですが、お母さんがだっこしていますし、お乳も与えているので、大丈夫だと思いたいのですけれども、注意して見ていきたいと思えます。ただ、(シロテテナガザルの)屋内展示施設が円山動物園にはないので、中にいるときはお見せできませんが、天気の良い風のない日を選びながら外に出てもらおうと思っております。

次に、主な転出動物、死亡状況です。

7月20日、アジアアロワナの雌1頭が死亡しております。

8月18日、アムールトラのタツオは、先ほどもお話がありましておとり、年齢19歳で、慢性維持不全のため、死亡しております。

8月25日、ニホンザルの雄の蝶太が口腔内に腫瘍ができて、予後不良ということで安楽殺しております。

8月26日、オリオオコオモリは、熱帯雨林館に展示する予定で準備していたのですが、残念ながら、死亡してしまいました。

9月18日、アルダブラゾウガメのウメは、9月に入って餌を食べなくなり、最終的に心不全で亡くなりました。23歳ということで、ゾウガメとしては若い個体ですけれども、死んでしまいました。

9月21日は、先ほどお話ししましたおとり、上野動物園にスンダスローロリスが出ていっております。

報告は、以上でございます。

○金子議長 ただいまの新着動物等についてご質問があれば、お願いしたいと思います。

○佐藤委員 ゾウガメはかわいそうだなと思えます。これは結構少ないですね。

○事務局(白水飼育展示課長) アルダブラゾウガメはそうでもありませんね。

○金子議長 他にございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、以上で予定しておりました議事は全て終了いたしました。

補足あるいは言い足りない、言い忘れてしまったことが何かございましたらお聞きいたします。

○巽委員 雨の日に来園者数が少なくなるかと思いますが、雨の日に活動が活発になったり、見てもらいたい動物はいるのですか。

○事務局(白水飼育展示課長) 雨の日に活発になる動物はいないのですけれども、道外のお客さんは予定を変更できないので、いらっしゃるのですけれども、すごく感動されま

す。こんな雨の日なのに、ほとんどの動物が見られる動物園はないですねと必ず言われます。屋内展示で見られる動物園はあまりないのです。窓の外から寝室内を見るところはあるのですけれども、円山動物園のように中に入ってゆっくり見られるので、逆に感動されます。

○佐藤委員 冬対策がしっかりできているから、それが雨対策にもなっているのですね。

○事務局（白水飼育展示課長） ただ、足を運ばれることはなかなか厳しいですね。

○佐藤委員 雨の日クーポンですね。

○事務局（白水飼育展示課長） また、爬虫類は関係なく元気ですね。

○事務局（小菅環境局参与） ゾウが入ったら、夏場だと雨が降ったら喜びます。基本、動物は雨を嫌がりません。ただ、サルやオランウータンは嫌いますね。

僕ら客のいない動物園（旭山時代のこと）としては、雨は嫌です。「雨の日は緑が輝いた中で動物を見られます」、「雨の日は空いています」というアピールを一生懸命やったことがあります。

ただ、動物は、サルを除いて、雨の日だからというのはあまりない気がします。

○事務局（白水飼育展示課長） 雨が降ってきたからといって屋根の下に行くのは人間だけです。

○事務局（小菅環境局参与） 雨だと緑が輝くのです。これはいいキャッチフレーズだと思っています。

○事務局（白水飼育展示課長） それこそ、雨が降ったプールの中が見えるわけですから、新しくできるホッキョクグマやアザランはおもしろいかもかもしれませんね。

○異委員 写真を積極的にアップすれば、雨の日も楽しいことが伝わるかもしれません。

○事務局（小菅環境局参与） 雨の日特集なんていう写真があるとおもしろいかもかもしれませんね。

○高井副議長 異委員のおっしゃるのは、夜の動物園は夜の動物の生態が見られるからおもしろいのだと、大人気なわけですよ。同じように、雨だからこそ見られる生態があるとすれば、人が押し寄せる効果があるかもしれませんね。

○事務局（小菅環境局参与） 雨の日は、オランウータンはめちゃくちゃ嫌がるから、こんなふうにしていますとするのはおもしろいかもかもしれませんね。

○金子議長 ありがとうございます。

他によろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 最後に、連絡事項について、事務局からお願いいたします。

○事務局（三井経営管理課長） 二つあります。

まず、一つ目ですが、お手元に市民動物園会議の委員の皆様にとということで、円山動物園に対してメールが届いております。お戻りになりまして、ご一読いただき、何かあればご連絡いただければと思います。



○金子議長 皆様のところにも市民の方からのメールがあるかと思います。

長文ではありますが、問題点等についてご指摘をいただいているものですが、お戻りになられてから読んでいただき、何かあれば事務局までご連絡をいただければということですので。

○高井副議長 市民動物園会議は、やはり、市役所や動物園の事務局とは違う第三者機関として、こうしたご意見があれば真摯に検討して、しっかり読んだ上で今後の議論に反映させていくようにすることがよいのかと思いました。

○金子議長 ただ、個人情報について、あるいは、個人批判になるようなことを市民動物園会議として審査するような性格はありませんので、こういうご意見が寄せられたということで、これを参考にさせていただき、次のステップへ、特に今回は基本計画の改訂がありますので、その中でトラブルがないようにどういうふうに向き合いをしていくかということになります。

また、今回ご説明がありました組織や人事、動物専門員の採用の中で飼育員の技術レベルも上がってくることが期待されますので、そういった将来の方向に向けて、市民動物園会議では市民の皆さんからご意見を聞きながら、よりよい提言ができればと思います。

まずは、委員の皆様へということでメールが来ておりますので、読んでいただき、何かありましたらご連絡をいただければと思います。

○事務局（三井経営管理課長） 二つ目は、次の会議についてです。

各委員のご予定をお伺いしたいと思いますので、会議終了後、委員の皆様には残っていただきたいと思います。

○金子議長 どうもありがとうございました。

それでは、これで第30回市民動物園会議を閉会いたします。

今回も非常に貴重で有意義なご意見をいただきましたので、事務局で整理していただき、次の会議につなげていただければと思います。

今日は、どうもありがとうございました。

### 3. 閉 会

○事務局（加藤円山動物園長） 長時間にわたり、有意義なご審議をいただき、ありがとうございます。

今回は具体的な取組の審議になりますので、少々お時間を要するかもしれません。そうしたことを踏まえながらご審議をいただければと思います。

どうもありがとうございました。

以 上

※この内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあつたものなどを整理したうえで作成しています。